

1998年カリブ海日食ツアー

金沢星の会 小池田 忠蔵

旅行期間 2月20日(金)～ 3月3日(火)

観測地点 カリブ海洋上(皆既帯中心線上)

参加人数 14名+添乗員1名

以上の皆既日食観測に参加し、素晴らしいコロナを見ることができたので、その顛末を述べます。

1、参加申し込み

この企画を知ったのはパソコン通信で、“西はりま天文台友の会”のT氏が書いたメッセージである。さっそく天文台長のK氏に電話でお願いしたところ、締切間際ではあったがどうぞと言うことで参加することができた。友の会会員ではないが、K氏に面識があったのが良かったと思う。

徳島から参加したK氏、Mさんも友の会会員ではないがパソコン通信のメッセージを見て、申し込んだそうだ。

2、出 発

2月20日午後1時20分 大阪伊丹空港集合なので、金沢駅を9時に出発し、新大阪で空港リムジンバスに乗り継ぎ、12時過ぎにはもう団体受け付けに到着した。そこには2日前に送った大きいスーツケースが届いていた。昔に比べれば随分と便利になったものだ。(高齢者には有難い)

ここでチェックにするスーツケースのX線検査を受けて預けたので、乗り継ぎの成田やシアトルまでは、広い空港を重い荷物を引きずらなくてもよかった。

午後2時半全日本空輸で成田へ行き、3時間の待ち合わせで出国手続きを終え、アメリカン航空に乗ってシアトルに向かった。シアトルでの入国手続きをすませマイアミへと乗り継ぎ、ホテルに入ったのは現地時間で同じ日の深夜近くとなった。日本時間ではすでに翌日の朝である。途中に乗り継ぎ休憩はあったものの、いきなりの長旅にはいささかまいった。

3、乗 船

21日早朝再び空路でプエルトリコのサンファンへ向かった。飛行場から途中古い砦を観光し、いよいよ豪華客船の待つ港へ近づいた。なんとそこには船と言うより、巨大なデパートが岸壁についていると言った感じである。

乗客定員：1950人 乗り組み員数：900人 全長：261m

全幅：32m 高さ：56m 総トン数：77,000トン

この巨大な船 ドーン プリンセス号にこれから乗船するのだと思うと、心臓がときどきする。高まる心を抑え、乗船手続きをとる。これがまた大変で、一般の入出国と同じである。外洋船に乗ることは、出国することであり、パスポートが必要となる。

4、クルーズ

21日夜半に出航し、22日はセント・トーマス、23日はドミニカ、24日はグレナダ、25日はラグアイアと、日中は上陸して観光するもよし、船内で開かれる各種イベントに参加するのもよかった。夜は毎晩世界各国のフルコースディナーで、快適なクルージングを楽しんだ。

5、船から電話

皆既日食を明日に控えた25日のディナーの後、船はアルーバ島へ向かっていた。アルーバ島には別の観測グループに参加した妻洋子が、すでに到着しているはずである。

ホテルの電話番号は聞いてあるので、電話のかけかたを添乗員に調べてもらった。部屋の電話器から77-1-297に続いてホテルの電話番号とのこと。何度かダイヤルするがいっこうに通じない。直接インフォメーション窓口へ行き、手ぶりを交えてやっと、77の後に発信音がしてから011-297とダイヤルすることを聞きだした。このとき語学力の低さをいやというほど痛感させられた。

電話の向こうに妻の声が聞こえたときはほっとした。私は洋上で観測するから、夕方港で会うことを約して電話を切った。(3分24秒で38ドル)

6、皆既日食

26日朝アルーバ島の港に着き、14人の内重装備のT氏をはじめ6人が陸上観測のため下船した。船は再び洋上観測点へと向かった。ところが晴れていた空がだんだん曇りだし、全天が黒い雨雲で覆われ小雨まで降りだした。島の方はどうだろうか、心配してもどうにもならないあきらめの境地である。しかしハイテクを装備した豪華客船のこと、雲の動きなどはたやすくキャッチしているはずだ。はたしてやがて雨もあがり、昼ごろには快晴となった。

私は双眼鏡でコロナやプロミネンスを観察することを主にし、記録はソニーの8ミリビデオのみである。12時40分ごろ、右下がもう欠けはじめたので、ビデオのスイッチを入れた。1時40分太陽が半分ほど欠けたころ、船は皆既日食の中心線に沿い、風下に向かって巡航にはいった。三脚に乗せたビデオカメラの視野の中の太陽が、ほとんど動かないほど船の揺れはない。

太陽が細い三日月型になり、周囲が薄暗く少し涼しい感じがしたころ、いつの間にか金星が西の空低く明るく光っていた。2時11分5秒皆既に入った、前回のインドでの失敗をくりかえさないよう、忘れずにビデオのフィルターをはずし、あとは双眼鏡での観察に没頭した。

東西に幅広く伸びた大きなコロナと、上の方にはっきりしたプロミネンスが見えた。極の付近では刷毛のような短すじ状が明るい。やがて右下(西)が明るくなり、ピンクいろのプロミネンスと影層が点々と連なり、弧状の細い帯となる。14分44秒まばゆい閃光とわーと言う歓声と共に皆既は終わった。3分39秒は短いようだが、皆既の最中に何度か長い、長いと叫んでいた。

7、客船ピジター

皆既日食の興奮がおさまり、船が再びアルーバ島へ向かっているとき、せっかく港へ来てくれる妻を船に招きたいと思った。インフォメーション窓口へ行くと、昨日電話の件でお世話になったBOBS氏がいた。希望を話すと彼は、24時間前に申出をしないとだめだと言う。

あきらめて部屋へ帰りかけたとき、奥の部屋から戻ったBOBS氏が1枚の用紙を差し出し、ここに

署名と乗船させたい人の名前を書けと言う。どうしてなったのかわからないが、とにかく乗船が可能らしい。おまけに14階のバイキングで自由に食事をしてよいとのことである。

船は当初の予定より1時間遅れて港に入った。7階のデッキから帽子を大きく振りながら岸壁の妻を探した。手を振って答える妻に、観測成功を伝えるつもりで、両手で頭の上に輪を作った。下でも同じに答えているので、天気は良かったようだ。

急いで船を降り、乗船できることに驚いている妻と船のタラップを上った。入り口で入出国カードの半券を預け、胸につけるバッジをもらった。広いラウンジや客室などを見て周り、船内ショップで乗船記念に買い物と思ったが、停泊中はショッピングはできなかった。バイキングで一緒に夕食をとり、下船したのは8時過ぎだった。

8、現地ガイドによるメッセージの伝達

翌27日は360度全く島影もなく、まばゆいばかりのカリブ海を一路プエルトリコへと急ぐ。船は夕方からすごく揺れだし、甲板のプールから水が波打ってあふれていた。

28日早朝、6日間の日食クルーズを終え、サンファンに入港した。下船の諸手続きを終えて出迎えるバスに乗り、空港へ向かった。

現地ガイドの T さんは、昨日妻達のグループをアレシボへ案内したとのこと。「小池田さんに奥様から愛のメッセージを託されました。それはエイティエイト(88)と言えばすべて了解だそうです」ガイドのこの言葉には驚きました。88はアマチュア無線でのモールスコードで Love and Kisses のことである。このあと88が大変話題となったのは当然である。

9、トラブルの始まり

空港に着いて1時半出発のアメリカン航空に乗り込んだ。ところがエンジンの不調のため、一旦おりて待つことになった。見るとエンジンカバーを開けて2、3人で修理をしているようだ。再々延期のアナウンスのあと、再び搭乗し6時過ぎにようやく離陸となった。

ここまでほとんどトラブルもなく、全てが予定通り順調にやって来たこのツアーに、初めてトラブルがおきた。このあとどうなるか、心配だ。

マイアミ到着は夜になったので、予定のショッピングは駄目になったが、ようやく久しぶりの日本食にはありつけた。

翌3月1日早朝マイアミからシアトルへ行き、ここでの乗り継ぎがまたまた遅れた。それがなんと、飛行機のトイレの1つがつかまったことと、そのあと時間になってもクルーがそろわなかったとのこと。このため、成田着が3時間遅れの3月2日午後7時になった。乗り継ぎの伊丹行きには間に合わないため、アメリカン航空が手配した羽田東急ホテルに1泊することとなった。

10、無事帰宅

翌3日は快晴だったので、飛行機の窓から朝日を浴びたきれいな富士山が間近に見え、日食旅行の最後にふさわしい眺めであった。